

私たちの自粛生活

私の自粛生活 アゼリア合奏団inシニア 顧問 津川博保

最近、ナンプレにハマっておりますが元来、音楽、俳句、仏教を趣味にしている私にとってコロナ禍の中の自粛生活はそれほど苦痛ではありません。

さて、音楽に関してですが、コロナ禍であるが故に開拓した分野を少々述べます。

- ① トリオロスパインズ：ヴァイオリン×1＋ギター×2でトリオロスパインズを結成。マスクを着用し、公園の松の根元での演奏と名曲鑑賞を楽しんでおります。
- ② 作詞作曲：「大師俳句散歩の会」「浜木綿」「今朝の夢」「無常」「あの人がある」「うわさ話」「天高し」など十数曲を作詞作曲しました。初めての経験です。
- ③ リモート演奏：ラインの画像とヤマハシンクルームの音声で各家庭を結んだりリモート演奏を楽しんでおります。色々工夫して楽しんでおります。



アンサンブルポニー・かつしか は2020年2月末を最後に新型コロナウイルス感染防止のため練習を中止することを決めました。

4月の定期演奏会（30周年記念）はとても開ける状況ではなく10月に延期したのに結局中止になりました。コロナ禍で生命が最優先、音楽活動を1年以上自粛していました。自主練習のみの再開でも張り合いを無くし体調を壊したりしてお休みしている方が多くいました。

2021年3月、ようやく合同練習を再開し5月に再開後初めての演奏会が京成電鉄・青戸駅前の「シニア活動支援センター」で開催されました。楽団員14名が五十嵐先生の指揮の下で久しぶりにしっかり演奏が出来ました。こんな時期だからこそ“生”の演奏を届けたい、聞いて欲しいとの思いでこの機会をお受けし会場の皆さんの笑顔に“音楽の力”を本当に実感しました。

コロナ禍の収束はまだ見えません。練習や演奏会は感染拡大防止から制約が多く思うように出来ません。そんな中でも区の施設での練習、そして待ちに待った4月23日（土）の定期演奏会に向かって少しずつ元の活動に戻って行きたいです。

アンサンブルポニー・かつしか 山口 善生



「私の自粛生活」デジタル楽器との出会い 石岡SE 田口牧人

コロナ禍、練習はどうでしたか？

私の担当のバリトンサクソ（BS）は、重量大で、音が大きいので苦勞します。

そこで「デジタルサクソ(YAMAHA YDS-150)」を購入しました。この楽器は簡単にボリューム調整が出来るなど、素晴らしい機能が備わっている優れモノです。

まず軽量(BSの1/20以下)、楽器の準備・後処理が簡単、奇麗なビブラートが自動で掛かる、キーが軽い、音量は息の強さで決まる(実機と同じ)、またキーの異なるパート（E♭、B♭、C調）の楽譜も移調せずに吹ける。

負担の大きいBSでは、長時間練習に飽きてきたり、唇が痛くなったり大変ですが、これは音出しも容易で、疲労も少なく、今まで吹けなかった曲がこのデジタル楽器ではスイスイ吹けるということもあり、レポートリーが増えました。音はアコースティックの自然な音にはまだ適いませんが、ダメ元で購入したこのデジタル楽器で、新たな楽器演奏を楽しく経験出来た自粛生活でした。

